

令和3年度第1回南アルプス市総合教育会議 議事録

- 1、日 時 令和4年2月8日(火)
開会 午前10時 閉会 11時50分
- 2、場 所 南アルプス市役所甲西支所 2階 第2・3会議室
- 3、協議事項
- ・ICT教育の充実（GIGAスクール）について
 - ・ふるさと文化伝承館の現状と展望について
- 4、出席者
- | | |
|----------|-----------|
| 市 長 | 金 丸 一 元 |
| 教育長 | 増 山 希 世 彦 |
| 教育長職務代理者 | 室 田 直 樹 |
| 教育委員 | 渡 邊 正 義 |
| 教育委員 | 西 海 真 紀 |
| 教育委員 | 前 橋 登 紀 夫 |
- 5、説明者等
- | | |
|-------------|---------|
| 教育部長 | 柴 田 肇 |
| 教育総務課長 | 小 池 肇 |
| 教育総務課副主幹 | 岩 間 誠 |
| 学校教育課長 | 笹 本 忠 彦 |
| 学校教育課指導監 | 笹 本 信 仁 |
| 学校教育課課長補佐 | 折 居 弘 美 |
| ふるさと文化伝承館館長 | 中 山 誠 二 |
| 文化財課長 | 岩 間 修 司 |
| 文化財課課長補佐 | 田 中 大 輔 |

6、事務局

総合政策部長	内 田 淳
政策推進課長	依 田 賢 治
政策推進課主幹	深 澤 竜 馬
政策推進課副主幹	小 西 常 夫

7、傍聴人 8名

開会

（政策推進課・依田課長）

これから令和3年度第1回南アルプス市総合教育会議を始めます。

最初に挨拶を交わします。ご起立ください。相互に礼。ご着席ください。

それでは次第に基づき進行して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次第の1、市長あいさつ。金丸市長、ご挨拶をお願いいたします。

1、市長あいさつ

（金丸市長）

おはようございます。本日はお忙しい中、南アルプス市総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、平素から本市の教育行政にご尽力いただき、心より感謝を申し上げます。

本日の総合教育会議におきましては、「ICT教育の充実について」並びに「ふるさと文化伝承館の現状と展望について」ご協議をいただきたいと思います。

GIGAスクールにつきましては、今年度初めから一人1台端末の環境が整い、現在は授業での利用の他、家庭への端末の持ち帰り学習が実施されております。また、日々の学習の中での利用を通じて、児童生徒のICTを活用する力も向上しておるところでございます。本日は現状について確認する中で、今後の教育活動におけるICTの利点を活かした活用についてご意見等をいただければと考えております。

また、ふるさと文化伝承館につきましては、昨年11月12日に、国から博物館登録を受けたところであります。博物館には、資料の収集・保存、調査・研究、展示、教育・交流活動の4つの重要な役割がありまして、ふるさと文化伝承館は、市内の歴史、民俗、産業などを主に取り扱う、歴史・民俗系博物館に区分されております。今後は、この4つの役割をさらに充実させ、本市が誇る歴史や文化を、地域の皆様と共有できる活動を進めて参りたいと考えておりますので、本日は現状について説明させていただき、今後のあり方についてご意見等をいただけますようお願いいたします。

どちらの議題につきましても、今後の学校教育や文化財保護行政において、非常に重要な課題であると捉えておりますので、委員の皆様には様々なご意見を積極的にお願いしたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

2、協議事項

（政策推進課・依田課長）

ありがとうございました。続きまして次第の2、協議事項に移ります。

会議の進行につきましては、南アルプス市総合教育会議要綱第5条第3項において、市長が行うものと規定されておりますので、ご了承ください。

それでは金丸市長、これより進行の方をお願いいたします。

(金丸市長)

それでは、着座にて進行させていただきます。

協議事項に入ります。本日の協議事項は2点であります。まずは「ICT教育の充実(GIGAスクール)について」、学校教育課から説明をお願いいたします。

< ICT教育の充実(GIGAスクール)について >

(学校教育課・笹本課長、笹本指導監から【資料1】に基づき説明)

(金丸市長)

担当者からの説明が終わりましたが、只今の説明について何かご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

(前橋委員)

教育委員の前橋です。よろしく申し上げます。

まずICT教育におきまして、事前準備を市の教育委員会の方々非常にお疲れ様です。子供達が自宅に持ち帰ってきて、気軽に触れ、先生とMeetの時間に交流するという所は、非常に自分達の生活の中に学校教育が根付いて、先生に対する信頼度が子供達にあるのだなということが十分わかります。その中で、先日もICTの勉強という意味で、パソコン教育を受けさせていただきました。その中で、先生が話をされていた内容を含め、今回の途中経過も踏まえ、非常に平等にスタートラインが切れるという所が魅力を感じると同時に、あと一つは、このICT教育の一番主体は生徒さんであり児童であるということ、先生方に大前提でご理解いただきたいという所です。

只今日本においても、教員の負担軽減という言葉が非常に叫ばれている中で、それをもとにICT教育というものが生まれている訳ではないということ、先生方にご理解いただく中で、本来、例えば、このICT教育が理科の実験一つ取った時に、5人で一つの班で、アルコールランプに火を付けるのはA君だよ、ピーカーに水を汲んでくるのはC君だよ、これはD君だよとか、そういう中で自分の担当した係としては使い方が理解できても、実際に触れていない子供においてはどうなのかというところが、この映像授業を通してより深く理解できるのかなという所が非常に魅力を感じました。

ただ、一つ気を付けていただきたいのは、今非常に情緒不安定な子供さんもいる中で、あと道徳という意味を考えても、百パーセントICT教育に依存してしまうというのは当然危険なことだし、本来教育で同じ空間の中で友達の意見や、先生が仰っていただいたご指導の中で、子供さん達がそれに対する感情の受け止め方、また授業の進行の中で理解不足の表情をしているとか、そういうこともきちんと感じ取れる部分の授業というものも分けて進めていただけることが大事なのかなと感じました。また、こういう教育

を通して理解度をより増すという意味では、短期間での理解度確認ということを進めていただければ、より全員が南アルプス市の教育の発展にも寄与してくるのかなと感じました。以上です。

(学校教育課・笹本課長)

ありがとうございます。今委員の方からいただいたご意見の中で、学校教育として考えなければならないのは、やはり対面式の部分、リアルな教員との繋がりとの部分とICTの部分とのハイブリットで今後はいかなければならないだろうなということは、私共も感じております。本当に使い易いツールですので、依存しすぎない、ただ良い所をもらうという感覚を学校の方にお伝えしていきたいと思っています。さらにもう一点、理解度を増すという定着の所ですが、指導があったら評価が付きまとうものなので、指導したら評価、歩きながら考えていく部分はあるのですが、そういう所のサイクルを作っていけるよう、学校の方に指導していきたいと思っております。ありがとうございます。

(渡邊委員)

教育委員の渡邊です。よろしく申し上げます。

去年の今頃この問題が上がってきて、どうなるのかなと、一年間でどこまでできるのかなと非常に心配した訳ですけれども、この事業も6~7年前から少しずつ国の方でもお金をくれて始めてきた訳ですけれども、地方交付税の中でなされていることですから中々進まなかった。良いにつけ悪いにつけコロナのもとに急遽オンラインの教育をしなければならないということで、学校教育課、教育委員会はすごく大変ではなかったかと思っております。まず、その設備が整うまでが容易なことではなかったかと思っております。慣れ親しむという所から一人1台という所まで急遽できたということに感謝しております。それに伴うネットワーク環境整備という所もどんなふうに進むのかと思っていた訳ですけれども、学校訪問をする中で、それぞれの学校もスムーズに動いているという所を目にした所です。これについても、先程も話し合いの中で先生方を集めて研修ということも何回も何回もやっていたのではないかと思います。本当にご苦労様でした。

子供達も令和3年度、コンピュータに馴染むことから、一人ひとりツールとして利用できることまで進んできたという所が、頑張ってくれたことではないかと思っております。一応スタートラインに立ったということではないかと思っておりますけれども、何といたってもお金がないとこの後できないことがまだ沢山あるのではないかと思います。特に、昨年から始まった新しい学習指導要領にありますように、プログラミングの教育とか、デジタル教科書との繋がりということについてまた後で教えてください。

一つはやはり、私もオンラインの全国の教育委員さん達との会議に出させていただいて、初めてのことでいろいろな失敗が沢山あって学ぶことが一杯あった訳ですけれども、そうなるまでの問題や議論の中でも出てくるのではないかと思いますけれども、今年指導主事の八巻先生が頑張ってくれたのではないかと思います、そういう方が教

育委員会や学校の中において積極的に話がしてもらえ、また頼めるという人が欲しいのではないかと思います。そういう点についてはどうなっているかということについても教えていただきたいと思います。非常にお金のかかることですし、また教員の人材を育てるという面では非常に時間がかかることではないかと思います。これからも子供達にとって必要なことではないかという思いがします。それと同時に、現実なものに関わりということも大切にしていってもらいたいと思います。その点についてお願いします。

(学校教育課・笹本課長)

ありがとうございます。渡邊委員からのご質問について3点あったと思います。

まず1点目のデジタル教科書のことについては、今年度県の方でやってみないかということがありました。それに幾つかの学校で手を挙げさせていただきました。今年度は幾つかの学校で、導入のことをお金をかけずにさせていただきました。来年度に向けては、県・国の方でこういう事業がありますがどうですか、ということが来ましたので、本市も手を挙げました。具体的には算数・数学を中心に、南アルプス市は来年度デジタル教科書を22校で試験的にやっていくということになりました。デジタル教科書がどんなものかを教員に見せて、牛歩のような進み方しか来年度はできませんが、デジタル教科書を入れていくというスタンスであります。デジタル教科書はお金のかかる高いものでありますので、数年後には例えば市にお願いするとかありますけれども、当分は文科省の方で無償でやっていただけるということは受けておりますので、無償のうちに早くやっておこうとは思っております。

2点目の指導者の研修のことです。本当に時間がかかるということを書いていただいております。広域人事なので、南アルプスに今いる先生方が全部ここにいれば来年度はレベルアップが順次できるのですが、広域人事の関係で他の地区が、このChrome bookを使っていない地域から来る先生方もいらっしゃいます。そういう先生方が、言葉は悪いですがまたゼロから研修させていただいてというふうにやっっていこうと思います。同じような研修を何回も何回もしなければならぬのは時間がかかることですが、子供達のためにはそれをやっっていかなければならないと思っております。

あと、3点目のネットワークの環境整備とかいろいろなことをご心配いただいております。ありがとうございます。お金の面については市のご協力をいただいておりますので、またご支援いただければと思っております。プログラム教育のことについては、中学校の方は技術家庭科の時間でプログラミングの時間が取れますので、そこでやっいきます。それを他の教科に波及させていくことができると思います。ただ、小学校は技術家庭科の時間がございませんので、教科としての成り立ちはございません。ですが、ちょっと薄くなりますが、全教科で担任が算数の時間とかでプログラミングのことに触れていくという形になっております。そのようなふうに小学校でやっいて、中学校の技術家庭科の時間が楽しみになっていけば良いのかなと思っております。以上です。

(西海委員)

教育委員の西海でございます。座ったまま失礼いたします。

まず新型コロナの影響を大きく受ける未曾有の状況の中で、子供達のために、市の教育のもとにこの事業を進めてきた学校教育課や学校の先生方に敬意を表したいと思っております。

学校訪問で私も学校の様子を見させていただきましたが、先生が Chrome book を出して、と言ったら楽しそうに机の上に出していたのが非常に印象的でした。この事業を進めるにあたっては、やはり自治体とか学校が準備を進める部分が非常に大きかったと思うのですが、子供達のために一生懸命時間を割いて先生方が進めてきたというのは素晴らしいことだと思っております。私も家族がおりますので、どんなふうにかこのパソコンが活用されているか、いろいろな視点から見ていたのですが、例えば学校を休んだ生徒さんも一緒に朝の会に出席できたり、授業に出席できるということは非常に素晴らしいことですし、コロナが無くても、例えば挫折するとか怪我をするお子さんも沢山いる訳でして、教室に行くことも怪我をした時は難しいことなので、こういったことが進んでいくということは、全体から見ても素晴らしいことだと思っております。そういう意味では、災害だけでなく、普段の怪我などによって学習が遅れることも防ぐことができるということで良いなと思っております。

こういうものを使うには、モラルがとても大事ということが言われておりますので気になっているのですが、こちらの資料の中でも「南アルプスGIGAせんげん」ということが書いてありまして、実際子供達もまずこれを読んでから勉強を始めたということを知っております。これはやはり、それぞれの学校で自分達がこういった宣言を出すことができるというところまで繋げていけたら素晴らしいなと思っております。是非こういったモラルに関する勉強というのは定期的に、継続的に続けていって欲しいなと思っておりますが、このような点についてはどのような取り組みが行われているのか、また見通しなども教えていただけたら嬉しいです。よろしく申し上げます。

(学校教育課・笹本指導監)

ありがとうございます。先程の中にもあった訳ですが、来年度のカリキュラムの中に情報モラル指導ということで、意識的にこれを見ながら教職員も進めていきたいと思っておりますし、報道等にもあったメール等のこともある訳ですが、そこにつきましても、各クラス、学校も指導している訳ですが、教育委員会としてもそこはしっかり指導しておりますので、今の所大きな問題は起きていませんので、今後も引き続き注視していきたいと思っております。

(室田委員)

室田です。よろしくお願いいいたします。説明ありがとうございました。

説明をお聞きしまして、本市のGIGAスクールの進捗状況と課題等がよく分かりま

した。ありがとうございました。

令和の学校のスタンダードとして、一人1台端末を整備し、多様な子供達を一人残すことなく個別に最適化することで、創造性を生み、資質や能力を確実に引き出す効果を担う教育、これがGIGAスクールの目的ですね。それに向かって本市も着実に進んでいるなと感じました。本当にありがとうございます。本市では市長さんの深い理解や教育委員会の尽力をもって、他の市町村に先駆けて一人1台端末、通信ネットワークを整備され、ICT教育が進められていると承知しております。本当にありがたいと思っております。また、教育委員会の指導のもと、教材やカリキュラムの整備も進んでいると聞いています。本当にこれもお苦勞様です。

学校訪問をしていますが、児童生徒がパソコンの端末機を何の抵抗もなく楽々と使いこなしている姿を見まして、GIGAスクールの目的に向かって着実に前進していると感じました。それからICT活用を前提とした教材、カリキュラムの用意は大変な労力が必要で、それに取り組んでいる先生方は苦勞していることも十分承知しております。その努力に改めて感謝したいと思っている所です。しかし、このGIGAスクールの推進には、先程説明もありましたけれども、課題も幾つかあるというふうに全国的に言われております。まず、パソコンに堪能な教師だけでなく、苦痛を感じている教師も多いということや、ベテラン教師の中には、ICT教育そのものに消極的な人も多い。また、カリキュラム作成には多くの時間が必要であることなどが、全国的な傾向として挙げられています。また、現在のコロナ禍でオンラインを活用した家庭での学習が重要視されていますけれども、家庭での環境整備とか、セキュリティ問題とか、フィルタリングなど十分ではないのではないかとと言われていまして、保護者への情報モラル教育の必要性が大事ではないかとされています。本市の傾向はどうでしょうか。実情をもし良ければお聞かせいただければありがたいと思います。

これからも課題を解決し、今後の課題になる諸問題をクリアし、本市のGIGAスクール構想がより良く発展していくように、お互いに尽力していきたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。

(学校教育課・笹本指導監)

ありがとうございます。まず教職員の多忙、苦痛といった所ですけれども、私達が見ていて、始まってしまったら予想以上に使っているなという感じがします。子供の方が逆に先生こうだよ、と教えたりという場面もあったり、そこについては心配していたことはあまりないのかなという状況です。それから、家庭での環境整備ということですが、昨年度調べる中で、Wi-Fiが無い家庭がありましたので、260件位あったのですが、市の方でモバイルルーターを買っていただいて有効活用している所ですので、家庭環境の方については全家庭できるシステムになっております。

それから、フィルタリング等につきましても入っておりますので、安心して危険な所には行けないようになっていきますし、家庭に持ち帰った時も、使える時間は夜10時ま

でとなっており、それ以降は使えなくなります。低学年になると 8 時までなどと、それぞれの学校でルールを作っておりますが、10 時から朝 7 時まででは使えない状況となっております。

(学校教育課・笹本課長)

委員の方から、現場の教職員が大変だろうという言葉をいただきありがとうございます。この言葉は是非、私達学校教育課の方から学校に伝えさせていただいて、先生方の苦労は見てくれていますよという所は示させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

続きまして、課題の所で教職員の働き方改革との兼ね合いもお話にありましたが、今課題として出てきているのはこんな感じです。夜 10 時までの設定で各家庭の Wi-Fi で使える。10 時まで、実は教職員は全部の子供が回答を寄せるのを待っているのです。すると教職員が仕事をするのは 10 時以降です。これもやってみて初めて、10 時に設定すると教員は、例えば 40 人クラスで 38 人回答していると 2 人が回答していない、これは明日の朝言わなければ、というチェックを教員はしています。課題の保護者への研修についても、来年度の当初予算に盛りさせていただき、お金を使わせてもらいながら保護者への研修をしていきたいと思っております。以上です。

(金丸市長)

ここで、教育長の方からも意見ををお願いします。

(増山教育長)

教育委員さんからいろいろな意見をいただきましたけれども、まず市の方で一人 1 台端末を含めて ICT 環境を整備していただいて、本当にありがたいことです。それが令和 2 年度までに終わり、今年度から ICT 環境の一人 1 台パソコンでの授業も始められています。一番最初の目標として、鉛筆や消しゴムのように当たり前に子供達が端末を使うということを目指しましたが、それについても、何度か授業を拝見していますけれど、年度初めのスタートの時と比べると非常に子供達の物覚えが早く、操作が早くなっています。それに非常に驚きました。来年度以降は課題ごとに端末を利用して情報を集め、加工、分析して、それを授業で発表、発言することができるようにということを目指していましたが、もう既に、先程動画にもありましたが、今年度そういうことも始めております。子供達が覚えたものをさらに力を伸ばしてあげたい、そういう取り組みをして参るようにしていきたい。

それから、そのために先生方には ICT を活用して情報能力の向上を目指した授業、指導方法を工夫するための研修を重ねていただいております。大変ご苦労されていますけれども、その甲斐あってようやく端末利用の授業のレベルが他市町に比べて上がったといわれております。これは県の方から私の方に直接言われましたし、県の依頼で本市

の先生が市外の学校に行って授業の指導をするようなこともございます。そういったことで、レベルは上がってきたのですけれども、先程学校教育課長から話があったように、広域人事ということがありまして、人事異動で覚えた先生が市外に移ってしまう、また、市外から新しい方が来たり、新採用の先生も4月からは来ます。そういう方にも、また改めて研修を積んでいただきたいと考えております。ですから、当分の間は小さい範囲でのレベルアップということになってしまいますけれども、いずれにしてもこれから子供達に対して、ICT環境を活かして楽しく魅力ある授業、より質の高い授業を提供できるように、これからは先生方には研究、研鑽を積んでいただきたいと思っております。私からは以上です。

(金丸市長)

それでは、「ICT教育の充実について」は以上といたしまして、次の案件、「ふるさと文化伝承館の現状と展望」について、文化財課から説明をお願いいたします。

<ふるさと文化伝承館の現状と展望について>

(文化財課・岩間課長、ふるさと文化伝承館・中山館長から【資料2】に基づき説明)

(金丸市長)

担当者からの説明が終わりましたが、委員の皆様からご質問等ありますでしょうか。

(渡邊委員)

私も学校の教師としてやってきましたが、私達が20代、30代の頃は西郡には文化は育たないとよく言われて、何故かという貧しいということがあったと思うのですけれども、合併して以来、中部横断道も通る中でもいろいろなものが発掘されて、一つのこういう冊子を作っていただいて本当にありがとうございます。私も教育委員会に来る度に新しいものがないかといって貰ってきた訳ですけれども、勉強させていただきました。

先程も出ましたけれども、田中さん達が講師で来ていただいて、その話を聞いて改めて源氏の人達が源頼朝と関わっているかを子供達も間近で聞いて、生き生きした学習ができ本当に助かります。それ以外にも土器を作っていたり、子供達の卒業記念品を作ったりしていただきましたが、是非ともそういうことが一步一步子供に沁みていくのではないかと思います。維持管理ということは中々大変だしお金のかかることですから、一步一步計画を作って、長いビジョンの中でやっていくしかないのかなと思います。

(文化財課・岩間課長)

ありがとうございます。先程説明させていただいたように、文化財課では学校授業を含め、教育普及事業には力を入れさせていただいております。年間相当の件数をやっている状況です。職員にとっても負担にはなるのですが、子供達に市内の歴史文化を伝

えていくというのは非常に大事なことという認識の中でやっております。今後も同様の対応をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(金丸市長)

それでは前橋委員、何かございますか。

(前橋委員)

前橋です。実は昨日、ふるさと文化伝承館に足を運ばせていただきました。以前は子供と一緒にイベントに参加させていただきまして、職員の方と脱穀機を体験させていただいたり、手作りの弓矢を持って動物の形を射抜いて点数を取るゲームにも参加させていただきました。昨日訪問させていただいて、非常に南アルプス市の魅力、土偶などを通してより親密に感じることができました。南アルプス市の「ラヴィ」については全国的にも知れ渡っているところでもあります。その中で、非常に限られたスペースで多くのものを展示して皆さんに理解していただきたいという気持ちが分かりましたし、また職員の方もきちんと多くの正しい知識を身に付けて欲しいという中で、どの来訪者にも寄り添ってご説明をいただけたということは非常に感銘したところでもあります。

また、その中で博物館という登録をすることになった今だからこそ、今一度コンセプトをどこに置くのかという所は、展示物の多くが土器、土偶となっておりますけれども、先程の基本的役割という部分において、南アルプス市の歴史文化の紹介という所も踏まえますと、6町村一緒になっての南アルプス市の誕生ということを踏まえて、各町村の、若草であれば鬼瓦、甲西であれば安藤家住宅といった部分を踏まえて、地域の特性なども定期的に入れていくということで、子供さんが地元愛をより感じるのではないかと思います。そういう部分では、例えば「南アルプスクイズ王決定戦」という中で、市内の有名な施設、歴史の関係する所を出題することで楽しく学んでいただけるきっかけなども持っていただくというのも一つの案かなと思ひまして、そのような気持ちを持って見させていただきました。

博物館に、これからまたさらに全国の方がご来訪されることを祈りながら、発展に期待したいと思ひます。是非コンセプトを大事にして、何かまた新しいものにチャレンジしていただければと感じました。お願いいたします。

(文化財課・岩間課長)

ありがとうございます。博物館登録ということで、今現在の伝承館の展示内容につきましては縄文時代に特化したものなどということで、総合的な博物館という役割ではない状況です。先程委員さんが言われたご意見も参考にさせていただきながら、また展示内容も工夫して行っていきたいと思ひますので、よろしく願いいたします。

(金丸市長)

それでは西海委員、何かありますか。

(西海委員)

西海でございます。よろしくお願ひいたします。私も数日前にふるさと文化伝承館を改めて拝見させていただきまして、本当にスタッフの方々が近付いて説明をしてくださって、私の質問したことについても、スタッフの方だからこそ知っている情報をいろいろ教えてくださいまして、皆さん普段こんなふうに関わっていらっしゃるのだなと感じて帰って参りました。

今日も課長さんと中山館長さんからお話がありましたけれども、博物館の4つの機能に基づいて一つずつこういったことが課題になっているとお話がありまして、非常に分かりやすく聞かせていただきました。この4つの機能それぞれがうまく働かないと、博物館として、また市民に還元することが難しいと思うのですけれども、収蔵のスペースとか収蔵品を保管することについて、量が多いということは分かりましたけれども、課題とかこういうふうになっていたら良いなということがありましたら教えていただけたらと思います。

また、普段文化財課の方々が、地域の学校の子供達とふれあいの活動をなさっていることは私もよく知っておりまして、皆さんのご活躍には本当に目を見張るものがあるなと思います。地域の宝である文化財を知るということは、地域を知ったり大切にすることに繋がるので、素晴らしい活動であると思っております。また、皆さんの日頃の研究成果をもとに活動されていると思っておりますけれども、こちらの館が博物館になったということで、学芸員など働いている方の配置の状況についてどのような現状と課題があるのかを教えていただけたらと思います。

(ふるさと文化伝承館・中山館長)

最初の部分ですけれども、収蔵資料につきましては、ふるさと文化伝承館の中にも収蔵庫がございますけれども、今現在入り切らないという状況でございます。先程ご紹介しましたように、若草の旧役場を使いまして収蔵をしております。但しこれも正規の収蔵庫の機能を持っておりませんので、非常に重要な温湿度管理の部分ではまだ弱いかなということがあります。もう一つは、膨大な資料があるが故に、この整理作業が非常に残っておりまして、継続的にそれをやることによって、地域資源を、いただいた資料というのはある意味地域の宝として、次の世代に繋いでいくという使命があるのです。そのための施設というのは今後必要なのかなと思っております。

(文化財課・岩間課長)

学芸員等の体制は、今現在は伝承館には館長が学芸員の資格を持っているということで、条件はクリアしているということですが、それ以外の職員につきましては、今現在

文化財課の方に全て配置されているということで、今後は、文化財課は担当が一つということですので、その担当を分ける中で伝承館にも学芸員が配置できれば良いかなということですので今後の検討課題となっております。

(金丸市長)

室田委員、お願いいたします。

(室田委員)

室田です。よろしく申し上げます。私の地元にあるふるさと文化伝承館が、市内で2館目、県内で21館目の博物館法に基づく博物館に登録されたということで非常に驚いて、また同時に非常に誇りに思っております。皆様のご尽力に感謝しております。ありがとうございました。

これまでも、ふるさと文化伝承館は地域の歴史に裏付けられた様々なイベントを開催しておりまして、その都度地域の様子、関わりや歴史など非常に身近なものが中心となっておりまして、いつも大変楽しみ拝見させていただいています。また、土偶キャラ総選挙は日本一ですか、「子宝の女神 ラヴィ」とか、教科書の表紙を飾ったと言われていすけれども、国指定の重要文化財の人体文様付有孔罫付土器の展示など、国内外に誇れる多数の土器の展示もありまして、非常に博物館にふさわしいのではないかと感じているところです。

また、児童生徒の育成にも大変尽力されておりまして、沢山の児童生徒の指導に協力をいただいている、これも非常に感謝するものです。この活動も国内で非常に評価されていると聞いております。ありがとうございます。これからは是非、地元南アルプス市の魅力を沢山発信する、魅力ある博物館として活動して欲しいなと思います。是非よろしく申し上げます。

(ふるさと文化伝承館・中山館長)

ありがとうございます。先程委員の方からもご感想がありましたけれども、数十年前までは、この南アルプス市には歴史文化はそんなに無いのではないかという印象が持たれていた方も多かったのではないかと思います。ここに来て、調べれば調べるほど南アルプス市には非常に素晴らしい歴史或いは文化があるということが認識されてきて、それを将来この地域を繋ぐ子供達に伝えながら、人材育成をしていければと考えております。

(金丸市長)

それでは、ここで教育長からも意見を伺いたいと思います。

(増山教育長)

委員さん方からもお話がありましたとおり、文化財課という名前で仕事をしていますので、歴史文化を今までも、これからも子供達に伝えながら次の世代に引き継いでいく、それが一番重要なことであると思います。その上で、先程説明をされた中山館長は帝京大学の客員教授もされておりますが、先生からも説明があったとおり、大学との連携もしていただきたい。その中でこの地域の歴史文化をさらに深掘りして明らかにしていただきたいながら、研究者の育成にも力を注いでいただきたいなと思っております。考古学の世界では全国的にも認められた名のある方が館長としていらっしゃる今がチャンスだと思います。そして登録博物館ということになりましたので、これで箔が付いたと言っても良いのかと思いますけれども、一番のメリットとして、他の登録博物館との連携、これも先程説明がありましたけれども、いろいろ工夫をしながら、市民の皆様が胸を張って誇れる施設になるようにしていただきたいと思っております。

それから2年前ですか、観光と文化、これは一緒だよということでの法律が制定されたと思いますが、本市においては産業観光部と連携しながら、観光資源の一つとして積極的にこの施設から情報発信をしていただきたいと思っております。それからユネスコエコパークの理念に、文化的にも、経済社会的にも持続可能な発展とあります。これを頭にに入れて目指して取り組んでいきましょう。よろしく申し上げます。

(金丸市長)

ありがとうございました。

今日は各議題における現状や、今後の課題が共有できたのではないかと思います。

I C T教育の充実につきましては、児童生徒にとってより良い教育環境を整え、日々、子供達と接してご尽力いただいている先生方、大変仕事が増えて厳しいと思いますけれども、市といたしましても全体的に支援させていただきたいと考えております。

ふるさと文化伝承館につきましても、その役割を再認識するとともに、今後のさらなる活用について検討を進めて参りたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

以上で協議事項を終了いたします。教育委員の皆様には、貴重なご意見を本当にありがとうございました。

3、その他・閉会

(政策推進課・依田課長)

ありがとうございました。

それでは次第の3、その他に移ります。委員の皆様から何かご意見等ございますでしょうか。(無し)

無いようですので、これで本日の日程を全て終了といたします。

以上をもちまして、令和3年度第1回南アルプス市総合教育会議を閉会といたします。

最後に挨拶を交わします。ご起立ください。相互に礼。

お疲れ様でございました。

以上